第 10 回日本スポーツ理学療法学会学術大会 開催要項

テーマ: 『 スポーツ理学療法における共有と伝承 - The Best Contemporary Evidence and Expert Opinion - 』

開催趣意

2021 年 7 月より開催された東京オリンピック・パラリンピック大会では、全国各地から集結した理学療法士が、多くの競技会場や選手村にて世界のトップアスリートに対して理学療法を提供しました。多くの事前研修会や数百時間に渡るオンライン教育を受講してきたとはいえ、私たちは、当初はバックグラウンドもスポーツ理学療法士としての経験も異なる集団でした。しかしながら、私たちはアスリートに対して地道な機能評価を行い、それに基づいた理学療法サービスを提供する中で、互いの得意とする理学療法を見せ合いながら、理学療法士の大いなる可能性を確認しました。

2021 年 10 月に日本理学療法士協会は、およそ 10 年ぶりとなる理学療法ガイドライン第 2 版を出版しました。本学会からは、投球肩・肘障害、ACL 損傷、足関節捻挫に関する多くの Clinical Questions に対して文献を精査し、可能な限り meta-analysis を実施して理学療法のエビデンスを導き出しましたが、私たちはどの程度共有することが出来ているでしょうか。理学療法士は理学療法士免許が有効になった日から臨床現場にて一人の理学療法士として働き始めます。そして数週間も経つと、大学や臨床実習で身につけたはずの理学療法の評価や治療が正確に実施できないことや、まわりの先輩理学療法士に比べて治療効果が十分ではないことに気づき始めることが多いのではないでしょうか。理学療法士として、一人で成長し続けることは難しいことです。また、他の方の考え方を認めることや、本に書かれている詳細な内容を理解し、検証することは難しいことでしょう。

本大会では、スポーツ理学療法の領域で活躍されてきた先人が積み重ねてきた知識や技術、経験などを学び、アスリートに生じる機能障害の捉え方や治療手技のコツなどを共有するとともに、新しい考えや若い人の感性を大切にしながら受け継がれていくことが私たちの大きな成長へとつながる，そして現在において入手可能な理学療法のエビデンスと専門家の意見を学修すべきであると考え、『スポーツ理学療法における共有と伝承 - The Best Contemporary Evidence and Expert Opinion -』という学会テーマとしました。海外からは FIFA のメディカルセンター（F-MARC）や国際スポーツ理学療法連盟（IFSPT）の理事で活躍され、現在も British Journal of Sports Medicine（BJSM）の副編集長を務める Dr. Mario Bizzini 先生と、野球のバイオメカニクスからみた研究と安全対策を全米レベルで研修会を開催してきた Prof. Rafael Escamilla 先生よりご講演をいただくことになっています。また、東京大学リハビリテーション科教授の緒方徹先生にアスリート及び国民に対するスポーツとリハビリテーションの可能性についてご講演いただきます。そして、スポーツ理学療法士を牽引してきていただいた先生方とスポーツ理学療法における学際的で幅広いレベルの支

援活動において活躍されている先生方を織り交ぜるプログラムを構成しました。

本学術大会ではご協賛いただく皆様と共に、これまでのスポーツ理学療法を築き上げていただいた叡智を共有するとともに、新しくて広大なスポーツ理学療法の領域で活躍される会員各位に伝承するとともに、創造していく機会になれば幸いであると考えています。

つきましては本学術大会の趣旨にご賛同いただき、何卒格別のご配慮を賜りたくお願い申し上げます。

2023 年 4 月吉日

第 10 回日本スポーツ理学療法学会学術大会

学術大会長 赤坂 清和

主催 一般社団法人日本スポーツ理学療法学会

後援(前回大会における依頼団体)
スポーツ庁
独立行政法人日本スポーツ振興センター
公益財団法人日本スポーツ協会
公益財団法人日本パラスポーツ協会
一般社団法人日本整形外科スポーツ医学会
一般社団法人日本アスレティックトレーニング学会
公益財団法人日本パラスポーツ学会
公益財団法人日本オリンピック委員会
特定非営利活動法人 NSCA ジャパン

学術大会概要

1. 大会名　第 10 回日本スポーツ理学療法学会学術大会

2. テーマ　『 スポーツ理学療法における共有と伝承
- The Best Contemporary Evidence and Expert Opinion - 』

3. 会期　2024 年 1 月 6 日(土曜日)~1 月 7 日(日曜日)

4. 開催会場　ソニックシティ

5. 学術大会長　赤坂 清和(埼玉医科大学)

6. 予定参加者数　860 名

7. 主催者　一般社団法人日本スポーツ理学療法学会

8. 大会組織(準備委員会)
副学術大会長　鈴川 仁人(横浜市スポーツ医科学センター)
副学術大会長　遠藤 浩士(伊奈病院)
準備委員長　乙戸 崇寛(東京工科大学)

9.　大会事務局

埼玉医科大学保健医療学部理学療法学科

担当：大久保　雄

E-mail：10thoffice@jsspt.jspt.or.jp

10.　学術大会企画

〇大会長講演

テーマ「アスリートに対する外傷・障害予防」

大会長：赤坂　清和（埼玉医科大学）

〇特別講演

テーマ「スポーツ政策における理学療法士の役割（仮）」

講師：調整中（スポーツ政策関係者）

〇学会 10 周年記念　特別講演

テーマ「日本スポーツ理学療法学会の 10 年間の歩み（仮）」

講師：小林　寛和（日本福祉大学）

〇海外招聘講演 1

テーマ「Injury prevention programs in sports: from RTCs to the implementation in the real world」

講師：Dr. Mario Bizzini (Human Performance Lab, Schulthess Clinic, Zurich, Switzerland)

〇海外招聘講演 2

テーマ「Biomechanics, Common Injuries, and Injury Prevention Strategies of the Shoulder and Elbow in Baseball Pitching」

講師：Dr. Ralph Escamilla (California State University at Sacramento)

〇教育講演

テーマ「パラスポーツの広がりと可能性」

講師：緒方　徹（東京大学）

○シンポジウム 1

テーマ「多彩な理学療法士の活動と広がり」

シンポジスト：

片寄　正樹（札幌医科大学）

岡戸　敦男（トヨタ自動車（株）リコンディショニングセンター）

鈴木　章　（JHPSC）

○シンポジウム 2

テーマ「大学スポーツにおける理学療法」

シンポジスト：

寒川　美奈（北海道大学）

小山　貴之（日本大学）

宮下　浩二（中部大学）

○シンポジウム 3

テーマ「地域におけるスポーツ理学療法」

シンポジスト：

千葉　慎一（ウェルケアわきた整形外科）

福本　貴彦（畿央大学）

田村耕一郎（広瀬医院）

○オープニングセミナー1

テーマ「スポーツ理学療法の卒前・卒後教育の課題と展望」

講師：坂本　雅昭（高崎健康福祉大学）

○オープニングセミナー2

テーマ「スポーツ理学療法におけるピラティスおよびモーターコントロールエクササイズの実際」

講師：増渕　喜秋（Pilates Lab 代官山）

○モーニングセミナー1

テーマ「チームサポーターとしての理学療法士」

講師：

前田　慶明（広島大学）

瀧口　耕平（京都ハンナリーズ）

○モーニングセミナー2
テーマ「スポーツ理学療法における世界の動向」
講師：
相澤　純也（順天堂大学）
渡邉　裕之（北里大学）

○ランチョンセミナー1
テーマ「国際総合競技大会における理学療法士の活動」
講師：鈴川　仁人（横浜市スポーツ医科学センター）

○ランチョンセミナー2
テーマ「埼玉県理学療法士会におけるスポーツ理学療法の取り組み」
講師：遠藤　浩士（伊奈病院）

○ランチョンセミナー3
テーマ「足関節靱帯損傷に対する評価と理学療法」
講師：小林　匠（北海道千歳リハビリテーション大学）

○ランチョンセミナー4
テーマ「スポーツにおける慢性膝関節障害の評価と理学療法」
講師：佐藤　正裕（八王子スポーツ整形外科）

○一般演題（50 題程度を予定）
○ポスター発表（120 題程度を予定）
○企業展示

11.　日程表
別紙「第 10 回日本スポーツ理学療法学会学術大会日程表」をご参照下さい。